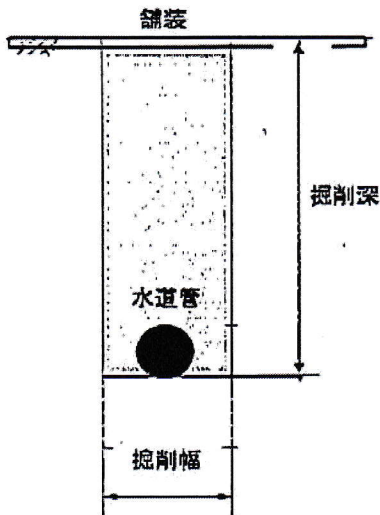


GX 形ダクタイトイル鑄鉄管布設における掘削幅の改定について

●水道管布設工事における掘削幅

通常、水道管は道路を縦断的に掘削し埋設する。水道管工事の設計では、掘削する幅（以下、「掘削幅」）を管種や口径、土留工の有無等を考慮して算定し、この掘削幅により算出する掘削や埋戻の土量（図の網掛け部）や、舗装復旧の面積等により工事費を積算する。この掘削幅の算定法は「水道施設整備費に係る歩掛表」に記載されている。



●GX 形ダクタイトイル鑄鉄管

耐震形ダクタイトイル鑄鉄管の一つで、現在、耐震化や更新等において最も多く使用されている水道管。従来の NS 形（掘削幅 60cm）に比べて、接合の作業性が向上しており、狭いスペース（掘削幅 50cm）でも作業可能で、工事費の低減が見込める。また、新技術の塗装が施されており、長期間（100 年間、従来比 2.5 倍）の使用が期待されている。

●全国管工事業協同組合連合会（全管連）からの要望

GX 形ダクタイトイル鑄鉄管の布設において現行基準の掘削幅 50cm では、掘削幅 60cm の NS 形ダクタイトイル鑄鉄管に比べて作業効率が落ちることや、労働災害上の観点からも課題があるとし、掘削幅の改定（60cm へ変更）を要望している。

●「水道施設整備費に係る歩掛表」の改定（平成 28 年 4 月 1 日適用予定）

- ① 作業環境改善等の観点から、全管種に共通して管路布設時に確保すべき作業幅として、最小掘削幅について現行基準の 50cm を「55cm」に改定する。
- ② GX 形継手の標準接合作業幅について、現行基準の 150mm を「175mm」に改定する。

<参考>GX 形掘削幅（土留工なし）(mm)

呼び径	50cm 掘削幅	備考	現行掘削幅	NS 形	樹脂管
75	550	最小掘削幅	500	600	550
100	550	最小掘削幅	500	650	550
150	550	最小掘削幅	500	700	550
200	600	接合時掘削幅	550	750	550
250	650	接合時掘削幅	600	800	550
300	700	接合時掘削幅	650	850	550

※最小掘削幅(55 cm)と接合時掘削幅（外径+接合作業幅×2）を比較し大きい値（1 cm 未満切り捨て 5 cm 単位で切り上げ丸め処理）を掘削幅とする

（以上）